

学会賞等受賞候補者募集

日本農芸化学会では、会員の優れた研究業績を讃え、表彰、顕彰するものとして下記の4つの賞を設けております。

日本農芸化学会賞（2件以内）：農芸化学の分野で、学術上又は産業上、特に優秀な研究業績をおさめた者に授与する。

日本農芸化学会功績賞（2件以内）：農芸化学の発展に特に功績のあった者に授与する。

農芸化学技術賞（4件以内）：農芸化学分野において注目すべき技術的業績をあげた者に授与する。

農芸化学奨励賞（10件以内）：農芸化学の進歩に寄与するすぐれた研究をなし、なお、将来の発展を期待しうる者に授与する。

2015年度（平成27年度）日本農芸化学会賞、日本農芸化学会功績賞 受賞候補者推薦募集

◆学会賞および功績賞の募集は8月29日（金）にて終了いたしました。

2015年度（平成27年度）農芸化学技術賞 受賞候補者推薦募集

農芸化学技術賞につきまして、受賞候補の推薦募集を行います。

推薦者資格：支部長または個人会員の方

候補者資格：次の1) または2)

- 1) 一般会員：共同研究者4名まで、ただし、候補者全員が推薦・申請の段階で会員である必要があります。個人名での応募になります。
- 2) 賛助会員：賛助会員として登録されている企業・部署名での応募になります。

応募方法：所定の推薦応募用紙を、①学会事務局にご請求（Tel, Fax, メール等）いただきか②学会ホームページ（<http://www.jsbba.or.jp/>）からダウンロードしていただき、必要事項を記入のうえ、原本1部、複写17部、添付資料（特許広報の写し）18部を**2014年10月31日（金）**までに学会事務局にお送りください。詳細につきましては、ホームページの応募要項をご覧ください。

※候補者資格の1) あるいは2) どちらに該当するかで書式が異なります。ご注意ください。

選考方法：提出された書類に基づいて、本会授賞選考委員会で選考します。

日本農芸化学会事務局：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル内

Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

2015年度（平成27年度）農芸化学奨励賞 受賞候補者推薦募集

農芸化学奨励賞につきまして、受賞候補者の推薦募集を行います。

推薦者資格：支部長または個人会員の方

候補者資格：次の1), 2) および3) を満たす個人会員

- 1) 本会会員で、1974年（昭和49年）4月2日以降生まれであること（満40歳以下であること）。ただし、満40歳以下で育児休業を取得した者は、1回の取得につき1歳の延長を認めます。
- 2) 2015年（平成27年）4月1日において、学生会員歴を含め本会に3年以

上継続して在籍していること。
3) 本学会会誌「Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry」に、発表済の論文が1報以上あること（BBB onlineに掲載されDOIがついていること）。

応募方法：所定の推薦応募用紙を、①学会事務局にご請求（Tel, Fax, メール等）いただきか、②学会ホームページ（<http://www.jsbba.or.jp/>）からダウンロードしていただき、必要事項を記入のうえ、原本1部、複写17部、主要論文3編の別刷（コピー可）×18セットを

2014年10月31日（金）までに学会事務局にお送りください。詳細につきましては、ホームページの応募要項をご覧ください。

選考方法：提出された書類に基づいて、本会授賞選考委員会で選考します。

日本農芸化学会事務局：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル内

Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

日本農学賞 本会推薦候補者募集

日本農学賞は、農学上顕著な業績に対し贈られる日本農学会の最高賞です。本会からの日本農学賞の推薦候補者を募集いたします。

推薦者資格：支部長または個人会員の方

候補者資格：会員の方

推薦方法：候補者推薦用紙を、①学会事務局にご請求（Tel, Fax, メール等）いただくか②学会ホームページ（<http://www.jsbba.or.jp/>）からダウンロードしていただき、必要事項（推薦者の氏名・所属（住所）・Eメールアドレス、候補者の氏名・所属（住所）・生年月日・Eメールアドレス・業績題目・最終学歴・学位）を記入し、**2014年9月30日（火）**までに学会事務局にお送りください。

ロードしていただき、必要事項（推薦者の氏名・所属（住所）・Eメールアドレス、候補者の氏名・所属（住所）・生年月日・Eメールアドレス・業績題目・最終学歴・学位）を記入し、**2014年9月30日（火）**までに学会事務局にお送りください。

選考方法：ご推薦いただいた候補者につきまして、あらためて候補者本人に、業績要旨・付属資料等の選考資料（原

本1部、複写17部）の作成・提出を依頼いたします。ご提出いただいた書類に基づいて、本会授賞選考委員会が選考し、1名を日本農学会に推薦いたします。

日本農芸化学会事務局：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センター

ビル内
Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

（目的）

第1条 この規程は、授賞選考委員会が選考する学会賞等の受賞者の表彰に関する事項を定めることを目的とする。

（種類）

第2条 表彰は、日本農芸化学会賞、日本農芸化学会功績賞、農芸化学技術賞及び農芸化学奨励賞とする。

（表彰基準）

第3条 表彰の基準は次の通りとする。

- 1 日本農芸化学会賞は、農芸化学の分野で、特に優秀な研究業績をおさめた者
- 2 日本農芸化学会功績賞は、農芸化

学会賞等受賞者表彰規程

学の発展に特に功績のあった者

- 3 農芸化学技術賞は、農芸化学分野の技術に関し、注目すべき業績をあげた者
- 4 農芸化学奨励賞は、農芸化学の進歩に寄与するすぐれた研究をなし、なお、将来の発展を期待しうる者

（表彰）

- 第4条 表彰は表彰式において行うこととし、受賞者には、賞状、賞牌を贈る。ただし、日本農芸化学会賞、日本農芸化学会功績賞及び農芸化学奨励賞には副賞を添える。

（受賞者の執筆義務）

第6条 日本農芸化学会賞、日本農芸化学会功績賞及び農芸化学奨励賞の受賞者は Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry に総説を執筆するものとする。また、農芸化学技術賞の受賞者は本会和文誌編集委員会の要請に従つて原稿を執筆するものとする。

（附則）

この規程は、公益社団法人日本農芸化学会としての登記の日より施行する。

2014年5月2日（第331回理事会）改正

（目的）

第1条 この規程は、授賞選考委員会が選考する日本農芸化学会賞、日本農芸化学会功績賞、農芸化学技術賞及び農芸化学奨励賞等の選考に関する事項を定めることを目的とする。

（選考基準）

第2条 各賞の選考基準は、次の通りとする。

- 1 日本農芸化学会賞は、農芸化学の分野で、学術上又は産業上、特に優秀な研究業績をおさめた正会員に授与する。
- 2 日本農芸化学会功績賞は、農芸化学分野の学術または学会活動に特に功績のあった正会員に授与する。日本農芸化学会賞の受賞者は授賞の対象としない。
- 3 農芸化学技術賞は、農芸化学分野において注目すべき技術的業績をあげた正会員あるいは賛助会員に授与する。その業績は実用的価値があることを要する。発表の形式は問わな

授賞選考委員会選考規程

い。

- 4 農芸化学奨励賞は農芸化学の進歩に寄与するすぐれた研究をなし、なお将来の発展を期待し得る正会員に授与する。

受賞者の年齢は受賞の年の4月1日において満40歳以下であり、授賞の年の4月1日において、学生会員歴を含め3年以上継続して在籍し、かつその業績は本会会誌に発表されたものを含むものとする。ただし、育児休業を満40歳以下で取得した者は、1回の取得につき1歳の延長を認めるものとする。

（授賞候補者の推薦）

- 第3条 各賞の候補者推薦は、支部長又は正会員が所定の用紙に記入して推薦するものとする。候補者が当該支部に所属するかどうかは問わない。推薦の締切りは、理事会がこれを定める。

（選出件数）

第4条 委員会は推薦候補者のなかから、授賞の価値ありと認めたものにつき、日本農芸化学会賞2件以内、日本農芸化学会功績賞2件以内、農芸化学技術賞4件以内、農芸化学奨励賞10件以内を選出するものとする。

（報告）

第5条 授賞選考委員長は、選出したおののに選考理由をつけて、1月25日までに会長に報告するものとする。

（受賞者の決定）

第6条 受賞者は、授賞選考委員会における選考結果に基づき、理事会が決定する。

（附則）

- 1 当分の間、授賞選考委員会は日本農学賞受賞候補者その他の選考を行うものとする。

- 2 この規程は、公益社団法人日本農芸化学会としての登記の日より施行する。

2013年7月24日（第326回理事会）改正

第12回農芸化学研究企画賞 受賞候補者募集

本会は2003年度に「農芸化学研究企画賞」を創設し、独創的な研究企画（研究テーマ）を公募いたしており、今年度も引き続き募集いたします。奮ってご応募ください。

1. 賞の趣旨と目的

本賞は、産学官連携強化のため、農芸化学分野に4つの重点研究領域（下記参照）を設け、各領域における斬新な研究企画を会員から広く募集し、本賞の趣旨に賛同した企業からの寄付金を、産学官学術交流委員会が選出した研究者に副賞として贈呈することにより、農芸化学のさらなる発展をめざそうというものです。

本賞は、従来のような研究成果に対する賞ではなく、これから研究の発展と産業化への期待が見込まれる研究企画を積極的に顕彰し、農芸化学における斬新で独創的な研究の推進を産業界が強力に支援することで、農芸化学における産業界と学・官界の連携強化への寄与をめざすことを目的としております。

2. 4つの重点研究領域

①先導的生物活性物質研究と新技術開発

(1) 革新的医薬医療を志向した生物活性物質の探索・合成・生産等の研究と新技術開発

(2) 革新的農林水産物生産を志向した生物活性物質研究と新技術開発

②機能性食品素材および食品

③グリーンバイオテクノロジー

(1) バイオマス資源の生産・供給・利用（有用物質生産プロセス等）に関するテクノロジー

(2) 省資源・省エネルギープロセスに関するバイオテクノロジー

(3) 環境浄化・資源循環に関するバイオテクノロジー

④地場産業の創生と活性化

3. 副賞および期間

1つの重点研究領域につき2件まで

副賞：200万円

研究期間：2015年4月1日～2017年3月
31日（2年間）

4. 応募方法

所定の応募用紙に必要事項をご記入のうえ、**2014年10月24日（金）**までに本会庶務係（shomu@jsbba.or.jp）までメール添付にてご提出ください。ただし、**重点研究領域④地場産業の創生と活性化に応募される方は、所属される支部にご提出ください。**

応募用紙は

①本会ホームページ（<http://www.jsbba.or.jp/>）よりダウンロード

②本会庶務係にご請求

どちらかの方法で入手することができます。

5. 応募資格

官公立大学・私立大学・高等専門学校・独立行政法人研究所等、公的な非営利研究機関に在籍する職員・研究者（年齢不問）で、本会会員であること。

※学生、企業関係機関在籍者は応募できません。

6. 選考

本会産学官学術交流委員会内に設けられた4つの重点研究領域の「テーマ選定小委員会」において、一次選考を行います。テーマ選定小委員会は、産業界の専門家で構成されております。

小委員会からの推薦を受け、産学官学術交流委員会で二次選考を行い、受賞者を決定いたします。

7. 顕彰、事後報告

受賞者には、2015年度大会中に開催される授賞式において、賞状の授与が行われます。また、年度大会中に開催される「産学官学術交流委員会フォーラム」にて中間報告や最終報告発表をしていただかほか、得られた研究成果によっては「化学と生物」誌への報告掲載をお願いしております。

研究期間終了後、3ヵ月以内に会計報告書および研究成果報告書を産学官学術交流委員会に提出していただきます。

8. 知的財産権等

選出された研究テーマの知的財産権は、研究者の所属機関に帰属するものとします。副賞の提供に参加された企業への交渉などの優先実施権は設けておりませんが、選出された研究者の所属機関との個別の折衝に対しては、委員会は特に関与いたしません。

第12回農芸化学研究企画賞 副賞ご寄附のお願い

本会賛助会員、団体会員の皆様方は、ぜひとも上記の本賞の趣旨をご理解いただき、ご寄附をお願いいたしたく、何卒よろしくお願ひ申し上げます。寄付金は単年度扱い、一口20万円、口数は自由となっております。

寄付金をお申込みいただけます場合は、本会事務局にご連絡ください。所定の申込用紙をお送りいたします。本事業へのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

《連絡先》

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル2階
(公社)日本農芸化学会事務局
Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

【第11回農芸化学研究企画賞副賞ご寄付会社】

第11回農芸化学研究企画賞の副賞は下記各社（50音順、敬称略、17社）の御芳志により授与されております。

- ◇ アサヒグループホールディングス 株式会社
- ◇ 味 の 素 株式会社
- ◇ 天 野 エ ン ザ イ ム 株式会社
- ◇ 株式会社 力 ネ 力
- ◇ キ ツ コ 一 マ ン 株式会社
- ◇ 協 和 発 酵 キ リ ン 株式会社
- ◇ キ リ ン 株式会社
- ◇ 月 桂 冠 株式会社
- ◇ サ ッ ポ ロ ビ 一 ル 株式会社
- ◇ サ ン ト リ 一 ウ エ ル ネ ス 株式会社
- ◇ 第 一 三 共 株式会社
- ◇ 長 谷 川 香 料 株式会社
- ◇ 不 二 製 油 株式会社
- ◇ 株式会社 明 治
- ◇ 森 永 乳 業 株式会社
- ◇ ヤ マ サ 醬 油 株式会社
- ◇ ラ イ オ ン 株式会社



Japan Society for Bioscience,
Biotechnology, and Agrochemistry

2014.9

会告

カレンダー・・・K-1
お知らせ・・・K-3
支部だより・・・K-6

CALENDAR カレンダー

会
告

期日	講演・会合等名称（会場）、《共催等》、太字＝本会関連
2014年（平成26年）	
9/1（月）	日本食品衛生学会第17回特別シンポジウム（東京）
9/2～6（火～土）	第27回国際ポリフェノール会議2014（名大）《共催》
9/3～5（水～金）	第65回コロイドおよび界面化学討論会（東京理科大）《協賛》
9/3～5（水～金）	JASIS2014（幕張）《後援》
9/4～5（木～金）	第67回日本酸化ストレス学会学術集会（同志社大）
9/4～5（木～金）	第28回カロテノイド研究談話会（石川）《協賛》
9/4～6（木～土）	第23回日本バイオイメージング学会学術集会「公開講座」並びに「学術講演会」（阪大）《協賛》
9/5～6（金～土）	第12回高付加価値食品開発のためのフォーラム（裾野）《協賛》
9/5～7（金～日）	栄養学若手研究者の集い第48回サマーセミナー（福井）
9/9（火）	フルオラス科学研究会第7回シンポジウム（札幌）
9/10～12（水～金）	第44回複素環化学討論会（札幌）《共催》
9/10～13（水～土）	2014年度日本冷凍空調学会年次大会（佐賀大）《協賛》
9/11～12（木～金）	第31回シクロデキストリンシンポジウム（島根）《共催》
9/11～12（木～金）	第59回リゲニン討論会（福井工大）《共催》
9/12（金）	第24回イソプレノイド研究会例会（岡山大）《協賛》
9/17（水）	プロテイン・アイランド・松山国際シンポジウム2014（愛媛大）《後援》
9/18～19（木～金）	平成26年度日本農芸化学会西日本支部大会（佐賀）
9/19～20（金～土）	2014年度日本農芸化学会関西支部大会（第486回講演会）日本農芸化学会創立90周年・関西支部創立80周年記念大会（奈良、奈良先端大）
9/20～22（土～月）	第58回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（和歌山大）《共催》
9/22～24（月～水）	平成26年度日本農芸化学会北海道・東北合同支部大会（北大、札幌）
9/24～28（水～日）	12th International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology（京都）《後援》
9/26～9/27（金～土）	学会創立90周年記念日本農芸化学会2014年度中四国支部大会（第40回講演会）（徳島大）
9/28～30（日～火）	第50回記念熱測定討論会（阪大）《共催》
9/30（火）	さんわか第22回ワークショップ「新しい局面を迎える機能性食品」（東大）
10/11（土）	日本農芸化学会創立90周年・中部支部創立60周年記念 日本農芸化学会中部支部第171回例会（名大）
10/11（土）	レドックスシンポジウム：酵素生物学の誕生（名大）
10/15～17（水～金）	第62回レオロジー討論会（福井）《協賛》
10/15～17（水～金）	2014地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展（東京）《協賛》
10/15～17（水～金）	第56回天然有機化合物討論会（高知）《共催》
10/22～24（水～金）	第51回ペプチド討論会（徳島大）《協賛》
10/24（金）	千里ライフサイエンスセミナーF3—免疫・感染症シリーズ第5回—「話題のウイルス感染症の正体とその対策」（大阪）
10/27（月）	第20回名古屋メダルセミナー（名大）《協賛》
10/28～29（火～水）	The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity（大阪）《協賛》
10/30～31（木～金）	第50回X線分析討論会（東北大）《協賛》
10/31（金）	大豆のはたらきin仙台—食を通して健やかな人生を—（仙台）《後援》

期日	講演・会合等名称(会場),《共催等》,太字=本会関連
10/31(金)	第23回腸内フローラシンポジウム(東京)
11/4(火)	第61回界面科学部会秋季セミナー(東京)《協賛》
11/4~5(火~水)	第55回機器分析講習会第3コース「MSの分析化学への活用に関する基礎講座」(東京)《協賛》
11/4~6(火~木)	第53回NMR討論会(阪大)《共催》
11/6~7(木~金)	第13回食品レオロジー講習会—初心者のための実習と基礎—(仮題)(東大)《協賛》
11/6~7(木~金)	第106回有機合成シンポジウム(早稲田大)《共催》
11/7(金)	IIRS創立十周年記念学術講演会(東大)《後援》
11/7~8(金~土)	第19回静岡健康・長寿学術フォーラム(沼津)《後援》
11/8(土)	日本ラクトフェリン学会第6回学術集会(つくば)
11/8~9(土~日)	第19回日本フードファクター学会(JSoFF 2014)(鹿児島大)
11/8~9(土~日)	第8回日本アミノ酸学会学術大会(東農大)
11/11(火)	2014年度オレオマテリアル部会(関東支部)セミナー(東京理科大)《協賛》
11/12~14(水~金)	アグロ・イノベーション2014(東京)《協賛》
11/13~14(木~金)	第42回構造活性相関シンポジウム(熊本)《後援》
11/14(金)	日本希土類学会第32回講演会(東京)《協賛》
11/14~15(金~土)	第47回酸化反応討論会(崇城大)《共催》
11/15~16(土~日)	第14回糸状菌分子生物学コンファレンス(東北大)
11/17~19(月~水)	第8回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム(高知)《協賛》
11/18~21(火~金)	ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2014(東京)《協賛》
11/20~21(木~金)	平成26年度後期(秋季)有機合成化学講習会(東京)《共催》
11/22~24(土~月)	第55回高圧討論会(徳島大)《協賛》
11/24~26(月~水)	アジア環境化学国際会議(International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014)(タイ)《後援》
11/27~28(木~金)	第37回情報化学討論会(豊橋)《共催》
11/27~29(木~土)	第41回有機典型元素化学討論会(宇都)《共催》
12/8~10(月~水)	第41回炭素材料学会年会(福岡)《協賛》
12/17~19(水~金)	Active Enzyme Molecule 2014(富山)《後援》
2015年(平成27年)	
1/19~20(月~火)	第26回高分子ゲル研究討論会(東大)《協賛》
3/26~29(木~日)	日本農芸化学会2015年度(岡山)大会(岡山,岡山大)
5/14~18(木~月)	第12回アジア栄養学会議(The 12th Asian Congress of Nutrition)(ACN2015)(横浜)《後援》

メールアドレス登録のお願い

本会では、マーリングシステムとWEBによる会員名簿の整備を進めております。このシステムのいっそうの充実を図るため、会員の皆様方にはメールアドレスのご登録をお願いしたいと存じます。

本会庶務係(shomu@jsbba.or.jp)まで、氏名、登録用メールア

ドレスをお送り下さいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

会員情報システムを通じて登録、閲覧される情報はSSL暗号化通信によって外部からの盗聴を防いでおります。

農芸化学会 からの お知らせ

本会告ページは、「化学と生物」2015年1月から掲載を停止いたします。1月以降の会告につきましては、本会ホームページに掲載いたしますので、そちらをご覧くださいますようお願い申し上げます。

学生会費の減額・会誌の刊行にかかる重要なお知らせ

会員の皆さまへ

公益社団法人日本農芸化学会
会長 清水 誠

このたび日本農芸化学会は、2014年度に引き続き、**2015年度よりの学生会費のさらなる減額を決定いたしました**。また、和文誌の発行形態の変更に伴い、**和文誌冊子体購読希望者の募集を行います**のでお知らせいたします。

なお、手続きの簡便化や事務費削減をさらに図るため、会費の納入方法についての希望調査を実施いたします。

本学会の更なる発展のため、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

記

① 学生会費の減額

学生会員の負担を軽減するとともに学生会員の増加を期待して、学生会費（2015年度～）を減額いたします。来春卒業または大学院修了予定の方は（3月までに会費納入の場合）、次年度分会費として改定後の学生会員費（3,000円）が適応されます。

なお、2015年度会費の請求は2015年度大会の参加登録時期（11月4日～）にあわせて行います。

（1）改定する会費の対象と金額

対象	現在の会費	2015年度からの会費
学生会員	4,000円	3,000円 (1,000円値下げ)

（2）会費の請求時期

現在	2015年度より
11月：WEB決済	11月：WEB決済、口座引落、
12月：口座引落、 郵便振替用紙	郵便振替用紙

② 和文誌「化学と生物」冊子体の年間購読

すでにお知らせいたしておりますように2015年度より「化学と生物」は基本的には現行の冊子体版からオンライン版中心に移行いたします。会員の皆さまは無償にてオンライン版を閲覧いただくことができますが、下記年間購読

料を別途納入していただくことで「化学と生物」冊子体も年間購読することができます。冊子体ご希望の方は、学会事務局から配信される冊子体購読希望調査に希望の有無をご回答ください。購読者登録の受付は8月上旬から開始いたしました。

なお、すでにお知らせしたとおり、「化学と生物」オンラインは、2014年5月より、試行版の公開を始めております。会員の皆さまには個人／法人マイページにおいて、冊子体発行日に先立ち、オンライン版を早期閲覧することが可能となっておりますので、オンラインもぜひ便利にご利用ください。

（1）年間購読料

対象	料金
有効会員、一般会員、教育会員、学生会員、国外在住会員	2,000円（3月号～2月号の年12冊分）
	※1冊あたりの書店通常購入価格 1,296円

③ 会費の納入方法調査

各種事務手続き変更の煩雑さを解消し、事務費削減を図るため、会費の納入方法についても調査を実施いたします。

上記②和文誌「化学と生物」冊子体の年間購読希望調査とあわせて実施いたしますので、何卒ご協力をお願い申し上げます。

以上

2015年度（平成27年度）大会のお知らせ

日本農芸化学会2015年度（平成27年度）大会を下記の予定で開催いたします。

岡山で初めての大会開催です。全国各地から大勢参加ください。

会期：2015年（平成27年）3月26日（木）～29日（日）

会場：

【授賞式／受賞講演／農芸化学「化学と生物」シンポジウム／懇親会】

2015年3月26日（木）

ホテルグランヴィア岡山（〒700-8515 岡山市北区駅元町1番5、<http://gravia-oka.co.jp/access/>）

【一般講演・展示会・シンポジウム・ランチョンセミナー・ジュニア農芸化学会等】

2015年3月27日（金）～29日（日）

岡山大学津島キャンパス（〒700-8530 岡山市北区津島中、http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html）

『岡山大学では敷地内禁煙が実施されています。学会参加者の皆様のご理解とご協力よろしくお願ひいたします。』

一般講演申込（要旨投稿）WEB受付期間：2014年11月4日（火）～2014年12月8日（月）正午（予定）

大会参加申込WEB受付期間：2014年11月4日（火）午後～2015年2月10日（火）正午（但 事前割引料金）（予定）

当日参加申込WEB受付期間：2015年2月10日（火）午後～2015年3月29日（日）正午（但 正規料金）（予定）

プログラム集（冊子体発行）：2015年2月25日（水）

講演要旨集（WEB上での公開）：2015年3月5日（木）

大会実行委員会：[委員長] 稲垣賢二（岡山大学大学院環境生命科学研究科）[副委員長] 上村一雄（岡山大学大学院環境生命科学研究科）[総務代表] 神崎 浩（岡山大学大学院環境生命科学研究科）

問合せ先：2015年度大会実行委員会

総務代表 神崎 浩 hkanzaki@okayama-u.ac.jp

さんわか第22回ワークショップ 「新しい局面を迎える機能性食品」のお知らせ

鈴木梅太郎博士によるビタミンB1の発見から100余年、農芸化学分野では実に多彩な食品研究が展開されてきました。その中でも、近年の食品機能性に関する研究の発展は目覚ましく、アカデミア、産業界はもちろん、一般国民に至るまで幅広い関心を惹きつけております。高齢社会到来に伴う加齢性疾患の増加や生活習慣病の蔓延を背景に、機能性食品による疾病予防や健康維持への期待は高く、トクホ以外のヘルスカーレム制度を導入しようとする動きも現れています。実際に、国の成長戦略の一環として、健康食品への機能性表示の改革が指示され、消費者庁において「食品の新たな機能性表示制度に関する検討会」が進行しています。そんな今、食品機能性研究はどこまで進み、今後どのように展開していくべきなのかを学ぶため、第一線でご活躍されている先生方をお招きして、お話を伺う機会を企画いたしました。今後の食品機能性研究に、産・学・官がどのように取り

組むべきなのかを考える一助になればと
考えております。

日 時：2014年9月30日（火）13:00～17:30
(17:45～技術交流会)

場 所：東京大学農学部（弥生キャンパス）フードサイエンス棟2階
中島董一郎記念ホール (<http://www.u-tokyo.ac.jp/campus/overview.html>)
最寄駅からのアクセス 東大駅前（地下鉄南北線）より徒歩3分、根津駅（地下鉄千代田線）より徒歩10分、本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線、地下鉄丸ノ内線）より徒歩15分

プログラム：「食品機能による生活習慣病予防の可能性」東京大学大学院農学生命科学研究科、佐藤隆一郎先生／「ロコモとメタボを同時に改善する機能性食品因子」東京農業大学応用生物科学部、上原万里子先生／「機能性農産物の開発と個人に合わせた供給システムの構築について」農研機構食品総合研究所、山本万里

先生／「機能性食品の開発と効果的な利用法」国立健康・栄養研究所、梅垣敬三先生

参加費：ワークショップ参加費 無料、技術交流会参加費 4,000円

参加申し込み：件名を「ワークショップ参加申し込み」とし、氏名、所属、連絡先メールアドレス、交流会参加の有無をE-mailにて、下記のアドレスへご連絡ください。

※申し込み先着順で定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。

※お申込みいただいた個人情報は、参加確認および今後のさんわかワークショップご案内以外の目的には使用いたしません。

問合せ先：東京大学大学院農学生命科学研究科 石丸喜朗（さんわか幹事）
Tel. 03-5841-1878
E-mail: ayishi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

本会推薦による賞・助成金情報

現在、本会では下記の賞・助成金の本会推薦候補者を募集しています。適任者がおられましたら奮ってご応募ください。本会授賞選考委員会で選考し、推薦いたしま

す。

賞・助成の詳細につきましては、当募集団体ホームページをご覧ください。

また、本会ホームページの賞・助成金情

報 (<http://www.jsbba.or.jp/info/grant/>)
もご覧ください。

【賞】

- 第46回内藤記念学術振興賞 (9/1締切)
- 第55回東レ科学技術賞 (9/10締切)
- 飯島藤十郎食品科学賞 (11/5締切)
- 飯島藤十郎食品技術賞 (11/5締切)

【助成】

- 第46回内藤海外学者招聘助成金 (9/1締切)
- 第55回東レ科学技術研究助成 (9/10締切)
- 第42回内藤記念講演助成金 (10/20締切)

切)

《問合せ・応募先》 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル内
日本農芸化学会事務局授賞係
Tel. 03-3811-8789 Fax. 03-3815-1920
E-mail: shomu@jsbba.or.jp

第42回研究奨励金交付候補者募集要項

対 象：農芸化学諸分野における意欲的な研究。1件1名としますが、共同研究者を含めても差し支えありません。

奨励金の金額：1件50万円以内、5件（総額250万円）

応募方法：所定の用紙（4ページ）に必要事項を記入のうえ、当財団あてに郵便にてご送付ください。推薦書は必要ありません。

応募の締切：2014年10月31日（金）消印有効

奨励金の交付：2014年12月

奨励金受領者の義務：

- (1) 受領者は、奨励金の収支に関する書類を整理保管し、

2016年4月末日までに、収支報告書を理事長宛に提出すること。

(2) 受領者は、2016年4月末日までに研究報告を理事長宛に提出すること。

応募用紙の請求先および送付先：

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

学会センタービル2階

公益財団法人農芸化学研究奨励会事務局

Tel. 03-3811-8789, Fax. 03-3815-1920

E-mail: acrf_info@jsbba.or.jp

小学校・中学校・高等学校への出前授業募集

このたび、本会広報委員会では、小学校・中学校・高等学校への出前授業を開始いたします。学校関係者の皆さま、たくさんのご応募をお待ち申し上げます。

趣 旨：日本農芸化学会の会員（科学者や知識人など）が、講師として小・中・高等学校へ出向き、農芸化学（動物・植物・微生物の生命現象、生物が生産する物質、食品と健康などを化学的な考え方に基づき研究する学問）にかかわる授業を、最先端の研究内容の紹介などを含め

ながら、講義・実験・演習を通して有意義に学びます。

授業対象：小学生・中学生・高校生、教員の団体ほか

付帯事項：講師派遣料は本会負担（ただし必要な備品などはご準備いただきます）

授業時間：1~2コマ授業（1コマ45分）

授業形態：クラス単位（複数クラス可）

対象地区：日本全国（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国四国、九州地区）

申込方法：申請書を郵送またはメール添付

（PDF）にてお申込みください。申請書受付後、本会で調整し、派遣講師と授業内容をお知らせします。

申請書請求・問合せ先：日本農芸化学会事務局広報係 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル2階

Tel. 03-3811-8789

E-mail: soumu@jsbba.or.jp

その他：申込多数の場合は個別に相談のうえ、適宜実施させていただきます。

会費の領収書について

会費の領収書は本会ホームページの会員Mypage（<https://jsbba.bioweb.ne.jp/mypage/>）からダウンロードできます。領

収書をご入用の方は、上記ページにログインし、ご自身の会費領収書をダウンロードしてください。

問合せ先：日本農芸化学会事務局会員係

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル2F

Tel. 03-5803-9561

E-mail: kaiin@jsbba.or.jp

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
新入会・登録情報変更などのURLについて

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
新規入会、登録情報確認・変更のURLは下記のとおりです。
登録情報を確認、変更される場合、会員ID（会員番号）とパスワードが必要です。
ご登録いただきました会員データに基づき学会誌の発送、会費・購読料の請求を

行っておりますが、登録データは外部に漏れることがないよう十分注意を払っております。

会員登録の変更につきましては、Web上では変更できない個所も定めておりますので、E-mailまたはFaxでも受け付けております。

この際、登録内容をご確認いただき、E-mailなどご登録いただいたいようでしたら是非ご登録下さいますようご協力く

ださい。

[日本農芸化学会ホームページURL]
<http://www.jsbba.or.jp/>

なお、パスワードを紛失された場合は「パスワード再発行」を行ってください。取得されたパスワードを独自のパスワードに変更する場合は「パスワードの変更」で手続きすることができます。

《事務局会員係》 Tel. 03-5803-9561, Fax. 03-5803-9562, E-mail: kaiin@jsbba.or.jp



平成26年度日本農芸化学会 西日本支部大会

期日：2014年9月18日（木）～19日（金）
会場：HOTEL グランデはがくれ（シンポジウム・特別講演・懇親会）
佐賀大学農学部（一般講演）
実行委員長：神田康三（佐賀大学農学部）
シンポジウム：「ファージ研究の新展開」
松崎茂展（高知大学医学部）「バクテリオファージ療法の現状と可能性」、大塚裕一（獨協医科大学）「ファージ療法・もう一つのチャレンジ」、土居克実（九州大学大学院農学研究院）「極限環境ファージの特性—ゲノム構造から展開する生命進化と産業応用—」
特別講演：村田 晃（佐賀大学農学部名誉教授）「有用嫌気性細菌におけるファージ研究のあゆみ」

一般講演：演題申込締切：2014年7月11日（金）、講演要旨締切：2014年8月8日（金）
詳細は支部ホームページ（<http://www.kyushu-u.ac.jp/jsbba-west/>）をご覧ください。
問合せ先：九州大学大学院農学研究院（角田佳充）Tel. & Fax. 092-642-2854

2014年度日本農芸化学会関西支部 大会（第486回講演会） 日本農芸化学会創立90周年・ 関西支部創立80周年記念大会

日時：2014年9月19日（金）13:00～18:30、
9月20日（土）9:30～17:30
場所：第1日目 東大寺総合文化センター
金鐘ホール（奈良市水門町100）、第2日目
奈良先端科学技術大学院大学（生駒市高山町8916-5）

プログラム：第1日目・シンポジウム「食と生命を科学して80周年～そして未来へ」（13:00～18:30）「祝賀挨拶」（清水 誠、日本農芸化学会会長）、「健康を守るトランスポーターABC蛋白質」（植田和光、京都大学・iCeMS・農学研究科）、「肥満・エネルギー代謝と食品機能」（河田照雄、京都大学・農学研究科）、「ビッグデータバイオロジーとしての生態学と医食同源の体系化」（金谷重彦、奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科）、「ポリフェノールサイエンスへの挑戦と創造」（辻村英雄、サントリーホールディングス）、「酒は百薬の長」を実証する 清酒およびその副産物の機能性」（秦 洋二、月桂冠）、特別講演「食品機能研究30年の回顧と展望—その光と闇」（吉川正明、京都大学名誉教授・生産開発科学研究所）、2014年度日本農芸化学会賞

受賞記念講演「酸化還元酵素・電極共役系を基盤とした生物電気化学研究の展開」（加納健司、京都大学・農学研究科）、「支部長挨拶」（内海龍太郎、関西支部長）・懇親会（奈良国立博物館地下レストラン 19:00～20:30）

第2日目・一般講演、2014年度日本農芸化学会功績賞受賞記念講演「食品製造における速度過程が関与する現象の工学的解析」（安達修二、京都大学・農学研究科）、「植物機能高度活用のための分子基盤開発」（横田明穂、奈良先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究推進センター）

参加費：無料

懇親会費：当日申込 一般5,000円、学生1,000円

連絡先：奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 高木博史（Tel. 0743-72-5420, E-mail: jsbba-kansai@bs.naist.jp）

詳細は <http://www.kansai-jsbba.jp> をご覧ください。

平成26年度 日本農芸化学会北海道・東北 合同支部大会

日時：2014年9月22日（月）13:30～9月23日（火・祝）15:00頃まで

場所：北海道大学農学部大講堂ほか

特別講演：9月22日（月）13:30～15:00
宮澤陽夫教授（東北大院農）「分析化学を基盤とした食品機能性研究の先導的展開」、
横田 篤教授（北大院農）「有用物質生産菌の中枢代謝強化に関する基盤研究」

特別シンポジウム：「先端技術で探る生命現象」代表世話人 高橋公咲（北大院農）
9月22日（月）15:00～17:00
講演者：菅 敏幸教授（静岡県立大薬）、川上 勝准教授（山形大工）、小松節子上席研究員（農研機構 作物研究所）、篠原康郎特任教授（北大院先端生命）

9月23日（火・祝）一般講演 9:30～12:00、
13:30～15:00頃

ポストシンポジウム：「若手の会」

9月23日（火）16:00頃～9月24日（水）行
き先：定山渓温泉ビューホテル

参加費は一般10,000円、学生5,000円の予定です。一般講演演題募集、若手の会の詳細はホームページ上（<http://www.agr.hokudai.ac.jp/jsbba/>）でお知らせいたします。

連絡先：農芸化学会北海道支部 支部庶務幹事 和田 大
〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目
Tel. 011-706-4185, Fax. 011-706-4961
E-mail: JSBBA_Hokkaido@agr.hokudai.ac.jp

学会創立90周年記念 日本農芸化学会2014年度中四国 支部大会（第40回講演会）

開催日：2014年9月26日（金）～9月27日（土）

会場：徳島大学常三島キャンパス（〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1, JR徳島駅から徒歩20分）

プログラム：

9月26日（金）：13:00～13:30、支部功労賞、奨励賞並びに技術賞授賞式；13:30～14:10、2014年度日本農芸化学会農芸化学会技術賞受賞講演；14:10～14:30、第2回（2014年）日本農芸化学会支部技術賞受賞講演；14:30～15:10、2014年度日本農芸化学会支部奨励賞受賞講演；15:20～17:50、シンポジウム『食と健康』（日本動物細胞工学会と共に）

「地中海食薬資源の機能性解析と有効利用」
磯田博子（筑波大・北アフリカ研究センター）、「アンチエイジング食品の探索とその機能性の分子メカニズム」片倉喜範（九大・農）、「ポリフェノールの生体利用性と高機能化戦略」寺尾純二（徳島大・HBS研究部）、特別講演：「機能性食品と腸管機能」清水 誠（東農大・応用生物）

9月27日（土）：9:30～、一般講演；12:00～12:50、支部参与会

参加費：無料

懇親会：阿波観光ホテル、会費8,000円（予定）

懇親会申込：nouka2014@bio.tokushima-u.ac.jp

世話人・問合せ先：徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 大政健史
Tel. 088-656-7408, Fax. 088-656-9148
E-mail: nouka-tokushima@tokushima-u.ac.jp
なお詳細は支部ホームページ（<http://jsbba.cs.jp/>）をご覧ください。

日本農芸化学会創立90周年・ 中部支部創立60周年記念 日本農芸化学会中部支部 第171回例会

ミニシンポジウム・一般ポスター発表

日時：2014年10月11日（土）13:00～

会場：名古屋大学シンポジオン（名古屋市千種区不老町）

プログラム：ミニシンポジウム『生物機能をひもとくケミカルバイオロジー研究の最前線』「DNA グアニン四重鎖を標的とするケミカルバイオロジー研究」長澤和夫（東京農工大学大学院工学府）、「タンパク質膜挿入の鍵を握る糖脂質」島本啓子（サントリー生命科学財団）、一般ポスター発表、懇親会一般ポスター発表への申込・講演要旨締切：9月11日（木）

詳細は支部ホームページ（<http://www.agr.hokudai.ac.jp/jsbba/>）

nagoya-u.ac.jp/~jsbba) をご覧ください。
問合せ先：中崎敦夫（名古屋大学大学院生
命農学研究科）
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
Tel. 052-789-4109, Fax. 052-789-4111
E-mail: nakazaki@agr.nagoya-u.ac.jp

**2014年度（平成26年）
日本農芸化学会
西日本支部奨励賞候補者募集**

日本農芸化学会西日本支部では、本年度に
おきましても農芸化学の進歩に寄与した研
究を顕彰する西日本支部奨励賞（一般；1
件、学生；1件）を公募いたします。奮つ
てご応募ください。応募資格・応募方法・
応募申請書につきましては、支部ホーム

ペー ジ ([http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/
jsbba-west](http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/jsbba-west)) でご確認ください。

応募締切：2014年（平成26年）11月7日
(金) まで。

応募書類提出先：〒812-8581 福岡市東区
箱崎6-10-1 九州大学大学院農学研究院
生物化学分野内

日本農芸化学会西日本支部
Tel. & Fax. 092-642-2854 (庶務幹事：角
田佳充)